

温 泉 分 析 書

1 . 申 請 者

住 所
氏 名

2 . 源泉名及びゆう出地

温 泉 (源泉名)
ゆう出地

3 . ゆう出地における調査及び試験成績

イ 調 査 名 所 属
氏 名
ロ 試 験 者 分析機関の名称
氏 名
ハ 調 査 年 月 日 平成 年 月 日
ニ 試 験 年 月 日 平成 年 月 日
ホ 泉 温 (調査時における気温)
ヘ ゆう 出 量 l /min (自然ゆう出・掘さく自噴・動力
揚湯)
ト 知覚的試験
チ p H 値
リ ラドン (R n) 含有量

4 . 試験室における試験成績

イ 試 験 者 分析機関の名称
氏 名
ロ 分析終了年月日 平成 年 月 日
ハ 知覚的試験
ニ 密 度 ()
ホ p H 値
ヘ 蒸気残留物 mg/kg ()

5 . 試料 1 kg 中の成分、分量及び組成
イ 陽イオン

成 分	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval %)
ナトリウムイオン (Na ⁺) カリウムイオン (K ⁺) マグネシウムイオン (Mg ²⁺) カルシウムイオン (Ca ²⁺) 鉄 () イオン (Fe ²⁺) (フェロイオン) マンガン () イオン (Mn ²⁺) (第一マンガンイオン) : :			
陽 イ オ ン 計			

ロ 陰イオン

成 分	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval %)
フッ素イオン (F ⁻) 塩素イオン (Cl ⁻) 臭素イオン (Br ⁻) ヨウ素イオン (I ⁻) 水硫イオン (HS ⁻) 硫酸イオン (SO ₄ ²⁻) 炭酸水素イオン (HCO ₃ ⁻) (ヒドロ炭酸イオン) 炭酸イオン : :			
陰 イ オ ン 計			

八 遊離成分
非解離成分

成 分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
メタケイ酸 (H_2SiO_3) メタホウ酸 (HBO_2)		
非 解 離 成 分 計		

容存物質 (ガス状のものを除く)
容存ガス成分

成 分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
遊離二酸化炭素 (CO_2) (遊離炭酸) 遊離硫化水素 (H_2S)		
容 存 ガ ス 成 分 計		

成分総計 g
 二 その他微量成分
 総ヒ素 mg
 銅イオン mg
 鉛イオン μg
 総水銀 μg
 6. 泉 質
 泉 (旧泉質名)

7. 禁忌症、適応症等
 (「温泉分析書別表」中5に記載する。)

平成 年 月 日

指定分析機関の名称
 所 在 地
 代表者の氏名

職 印

温 泉 分 析 書 別 表

- 1 . 源 泉 名
 - 2 . 源泉所在地
 - 3 . 温泉分析申請者
 - 4 . 泉 質
 - 5 . 療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等は次のとおりである。
 - 浴用の禁忌症
 - 浴用の適応症
 - 飲用の禁忌症
 - 飲用の適応症
 - 浴用、飲用の一般的注意事項
- (注) この別表は、温泉法第 14 条による掲示に必要な参考資料となるものである。

温泉分析書作成上の注意事項

- 1．本分析書は、鉱泉分析指針中の鉱泉分析試験法による分析成績に基づき作成すること。
- 2．本分析書の記載は、簡潔にして明瞭なことを旨とすること。
- 3．温泉の項は、具体的な温泉地名を記入すること。
- 4．源泉名については、第1号井、鷹の湯、松の湯等のように記載すること。
また、通称でも差支えないこと。
- 5．ゆう出地については、源泉の所在地の特定ができるようにできるだけ具体的に記載すること。
- 6．ゆう出量の項は、温泉が自然ゆう出か、掘さくによる自噴か、動力揚湯かについても記載すること。
- 7．知覚的試験については、鉱泉分析法指針の表現を参考にすること。
- 8．イオン表の各成分の記載の順序は、鉱泉分析法指針記載のとおりとすること。
- 9．密度については、小数第5位を四捨五入し第4位まで記載すること。
- 10．容存成分の分量数値は、鉱泉分析法指針に従うこと。
- 11．泉質は、鉱泉分析法指針の定めるところによること。
なお、旧泉質名を（ ）書するとともに、泉温の分類、液性の分類、及び滲透圧の分類を併記すること。
ただし、温泉法に規定する温泉であって、鉱泉分析法指針の規定による泉質の分類ができないものは、泉質名を記載しないこと。
- 12．禁忌症、適応症等については、鉱泉分析法指針による療養泉の場合のみ記載すること。
なお、禁忌症、適応症等については、泉質分類に基づく参考事項であり、温泉法第13条の利用許可並びに第14条の掲示と直接結びつくものではない。
- 13．3の調査者、試験者及び4の試験者は、責任者のみ記載すること。